

アイヌの人たちの歴史・文化② コシャマインの戦い

■ 戦いに至る背景

15世紀半ば頃、東北地方の権力闘争で南部氏に破れた安東氏とその配下の諸豪族が北海道に渡り、道南に館を築き住み着くようになったことで、その近い地域に住むアイヌの人たちの生産や生活の場が脅かされ、和人とアイヌ民族の間に矛盾や対立が生じることになりました。

さらに、この時期はアムール川下流域・樺太で朝貢交易を行っていた明が後退する時期と重なっており、下賜品(かしひん)^{*1}である高価な「蝦夷錦(えぞにしき)」^{*2}をはじめ中国品が手に入らなくなった結果、アイヌ民族の交易上の優位が失われ混乱や争いが生じたものと考えられています。



蝦夷錦

■ 戦いの経過

戦いの成り行きについては、後に松前藩が編纂した「新羅の記録」に記述されています。それによると、1456年、志濃里(しのり)^{*3}の鍛冶屋村で、マキリ(小刀)を注文したアイヌの男性と鍛冶屋がマキリの出来具合や値で対立し、鍛冶屋がマキリで男性を刺し殺したことが発端となり、1457年、アイヌの首長コシャマインに率いられたアイヌ軍が、豪族たちの館12館のうち、茂別と花沢の2館を残し、他のすべての館を攻略しますが、花沢館の客将^{*4}であった武田信広が中心となって反撃し、コシャマイン父子らを謀殺することによってこの戦いはひとまず終結することになります。館主側の勝利の中心となった武田信広は、蠣崎(かきざき)氏^{*5}の婿となり、後の松前藩の祖となります。

■ 戦いの影響とその後の状況

この戦いは、背景にあるアイヌ民族と和人の間にある様々な矛盾や対立の現れであるといえますし、この戦いがきっかけとなって、1550年(1551年との説もある)の「夷狄の商舶往還の法度(いてきのしょうはくおうかんのはつと)」に至るまで断続的に戦いが続きます。

それらの戦いは、単にアイヌ民族と和人の戦いではなく、時にはアイヌの人たちを巻き込んだ館主と館主の戦いであったり、時にはアイヌの人たちと館主の戦いであったり、複雑な様相を呈したようです。

「夷狄の商舶往還の法度」は、蠣崎氏が渡島半島東西兩岸のアイヌの代表を首長と認め、本州から渡海した商船から税を徴収し、その一部を「夷役(いやく)」としてアイヌの両首長に分配することなどを定めたものです。事実上、和人の居住地(和人地)を認めさせる一方、アイヌの今でいう土地・資源の権原(けんげん)^{*6}を和人が認めたとも理解でき、アイヌが和人と対等に近い関係で結んだ一種の条約とみることができます。この法度により、蠣崎氏は戦争状態を終わらせアイヌ民族との交易を独占的に管理する体制を築いていくこととなります。

*1 高貴の人が下の人にものを与えること

*2 高級な絹織物で中国の役人の制服

*3 現在の函館市内

*4 客としての扱いを受ける武将

*5 上ノ国の花沢館の館主

*6 他人の土地を使用するための賃借権

【出典】『アイヌ民族に関する指導資料』(財)アイヌ文化振興・研究推進機構
『アイヌ海浜と水辺の民』大塚和義 著 新宿書房

アイヌ語 豆知識

北海道には、アイヌ語に由来する地名が非常に多く、中でも、川や湖、崖や岬など地形を表す言葉にアイヌ民族の自然観などが込められている地名が多く見られます。その一例を紹介します。

地形からみたアイヌ語地名例

- ・ **ペッ** (大きい川) ⇒ 芦別市、登別市、浜頓別町、別海町、幕別町、陸別町、標津町など
- ・ **ナイ** (小さな川、沢) ⇒ 岩内町、幌加内町、木古内町、黒松内町など
- ・ **ト** (沼、湖) ⇒ 苫小牧市、当別町、当麻町、洞爺湖町、常呂町(北見市)、当路(厚沢部町)など
- ・ **ピラ、ペシ** (崖) ⇒ 赤平市、小平町、糠平(上士幌町)、平取町、古平町、安平町など
- ・ **エンルム、シリバ、シレトク** (岬) ⇒ えりも町、シリバ岬(余市町)、知床岬(羅臼町)など

【出典】『北海道地名誌』 NHK北海道本部編 北海道教育評論社

千歳市立末広小学校では、平成8年に校舎内に「チセ」を復元し、全学年でアイヌ文化を学ぶカリキュラムを作成しました。以来、アイヌ文化活動アドバイザーや地域の方の協力による体験的な学習を通して、自然や命を大切にする気持ちをはぐくんでいます。

◆ 6年間のアイヌ文化学習の流れ（1、2年生は生活科、3～6年生は総合的な学習の時間で実施）

学年	学習のキーワード	主な学習活動
1	見通しをもつ 知る 表現する	<ul style="list-style-type: none"> ・チセ探検と絵本の読み聞かせ ・ウボボ（座り歌）、笛遊び
2	遊びを通して自然と仲良くする	<ul style="list-style-type: none"> ・ホリッパ（踊り歌） ・弓矢、輪遊び
3	漁や料理を通して暮らしを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・サケ漁体験、サケの解体、料理 ・アイヌ語地名調べ
4	栽培を通して苦労を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・シブツケツ 栽培 ・収穫とアイヌの保存食づくり
5	道具作りを通して共生に気付く	<ul style="list-style-type: none"> ・シナノキからの道具づくり（イナウ削り、紐づくり）
6	人権について考える	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを決めての調べ学習 ・ポロトコタン見学

◆ 子どもの声

アイヌの人たちは、食べ物や道具を大切にしているね。

食べることは命をいただいているということなんだね。

自分で作った道具で遊ぶと楽しいね。

一緒に歌ったり踊ったりすると楽しいよ。

「末広小アイヌ文化学習実践資料集」

アイヌ文化学習を継続性のある教育活動とするため、これまでの実践の成果を冊子にしました。「活動のねらい」、「活動の実際」、「成果と課題」などを学年ごとにまとめて掲載しています。



アイヌの人たちの歴史・文化等に関する教材の紹介

小学生向け副読本

「アイヌ民族：歴史と現在 - 未来を共に生きるために -」

全道の小学校4年生に配布されている小学生向けの副読本『アイヌ民族：歴史と現在 - 未来を共に生きるために -』が、改訂されました。

内容は、「文化」「歴史」「現代社会」の3領域に区分されています。多くの写真や絵を掲載し、わかりやすい言葉を使うなど、子どもたちが進んで学習できるように工夫されています。

4月以降、すべての小学校に配布されますので、社会科や総合的な学習の時間などの学習活動の中で、積極的な活用をお願いします。



< 作成 (財) アイヌ文化振興・研究推進機構 >